

# 後免町商店街の再生

1190184 和田 南実希

指導教員：吉田 晋

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

## 1. はじめに

高知県南国市は、高知県の中東部に位置し、高知県の空・陸の玄関口となっている。

その南国市の中心地である後免町には、約400メートルに渡る商店街があり、かつては多くの人々で賑わい、地域コミュニティの場として機能していた。しかし現在は空きテナントが目立ち、人通りも殆どなく、地域コミュニティの場としての機能は失われてしまっている。本設計では、商店街の未利用のスペースを対象敷地とし、再び後免町商店街に活気を取り戻し、魅力ある地域コミュニティの場とするための提案を行う。

## 2. 対象敷地

商店街の西側は道も整備されまだ営業中の店舗も多いのに対し、東側は殆どがシャッターであるため、東側に絞って検討を行った。後述する設計テーマを元にこの商店街の東側エリアから3つの敷地を選定し、計画を行った。(図1)

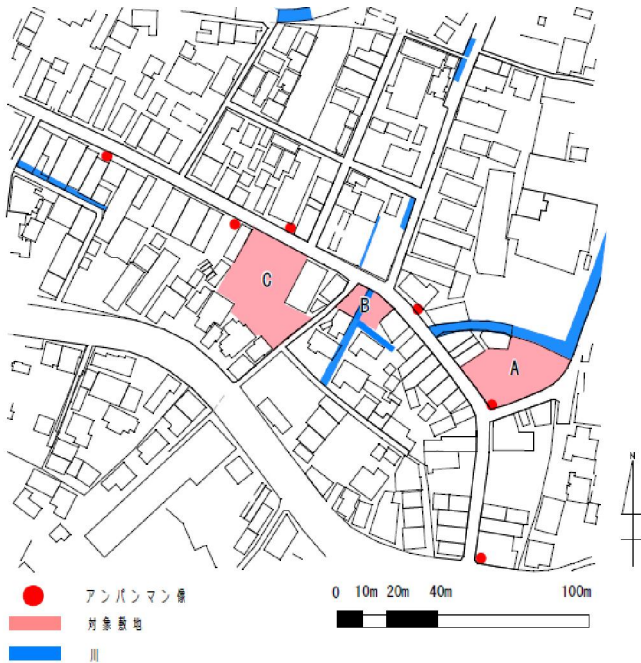


図1

この商店街は江戸時代、舟入川を水運とする商業町をつくったのが始まりとされ、建物の下に水路が潜りこんでいくような空間が各所にあるのが特徴的である。また、「アンパンマン」の作者・やなせたかし氏が少年時代を過ごしたゆかりの地であることから、「アンパンマン」の7体のキャラクターの石像が設置されており、対象敷地のある東側エリアにも5体の像が設置されている。

## 3. 現状と計画の背景

まず南国市の現状として、近年「ものづくり」で地域活性を目指す取り組みが多いことが挙げられる。地域で各種ものづくり体験フェスが開催され、小学校でジオラマ作りが行われるなど、地元企業が一体となった取り組みが見られる他、商店街で行われる軽トラ市などのイベントごとに向けて地域住民が一体となった取り組みも見られた。

また、南国市は近年子育て世帯の流入人口が増加傾向にあり、15歳未満の人口の数が高知市に次いで2位と県内において比較的に子どもが多い地区となっている。

上記の現状を踏まえ、後免町商店街に地域コミュニティの場としての機能を取り戻す上で、これらの地域的特徴を活かした提案を行うことにした。

## 4. 提案

### 4-1. テーマの決定

上述した背景を踏まえて、設定したテーマは「商店街×学び舎」である。

南国市が力を入れている「ものづくり」を活かした「学び舎」を未利用のスペースに作り、地域の大人やお年寄りといったものづくりの技術を知る人が、小さい子供や若者にそれを教える体験的に学べる施設を設置する。これにより地域コミュニティの活性化を図るとともに、作ったものを商店街で販売・配布などをすることで商店街全体の活性化、ごめんブランドの確立を目指す。

### 4-2. 方針

学び舎としての機能をもつ施設として、ものづくり教室、ギャラリー、子ども図書館の三つの施設の提案を行う。

三つの建物は、共通して機能ごとに箱型を作り、その箱型を組み合わせることで空間を作る。ものづくり、学び、交流の場であるこれらの空間は、様々な人間の様々な創造力を内包する空間であり、故にそれらを包む建築は簡潔でシンプルな箱型で構成する。

また、地域コミュニティの場として憩いのある空間を作ると共に、寂れた印象の強い商店街そのものに潤いを与えるため、3つの建築それぞれに自然の要素を取り入れた。

### 4-3. ものづくり教室

図1の敷地Aに、「ものづくり教室」を計画する。ものづくり教室は、地域の人々が集まってものづくりを体験でき、そして軽トラ市など各種イベントに向けての出

し物を製作する場である。

ものづくり教室は商店街の道に面した側に庭を設け、それを中心に機械場、手洗い場、作業場の箱型を配置した。(図2)



図2

#### 4-4. ギャラリー

図1の敷地Bに、「ギャラリー」を計画する。ギャラリーはものづくり教室で作ったものを展示したり、販売する場である。地域の学生や企業が自由に使える展示スペースも設け、また、軽トラ市にちなみ、「軽トラアートギャラリー」という後免町独自の展示形態をとることで商店街の一つのシンボルとなるような場を作る。

ギャラリーは売り場と展示室二つからなる三つの箱型で構成した。(図3)



図3

#### 4-5. 子ども図書館

図1の敷地Cに、「子ども図書館」を計画する。子ども図書館は子供達が日常的に訪れることのできる施設であると共に、軽トラ市などで行われている絵本の読み聞かせ会の会場として使うなど、各種イベントの際にも人が集まる場である。

子ども図書館は、小学生以下の児童用、小学校低学年

の児童用、小学校高学年の児童用、学習室用で空間を分け、4つの箱型を異なる向きや高さで繋いだ空間構成とした。また、屋外には緑化スペースを設け、外で本を読んだり休憩したりできるスペースとした。(図4、図5)



図4



図5

#### 5. まとめ

市の持つ地域的特性や商店街の歴史と密接に関わる敷地的特徴などを設計に組み込み、商店街が再び地域コミュニティの場として機能を取り戻せるような提案を行った。この創造力を内包する箱の中で、子ども達が地域の文化を受け継ぐとともに新たな文化を創造し、商店街そのものがその先も記憶に残り続ける、思い出の場所となることを願う。

#### 参考文献

基盤地図情報サイト | 国土地理院  
<http://www.gsi.go.jp/kiban/index.html>